

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夢をかたちに！ (*Scale up your Dream, and Build up your Future.*)

生徒が自らの進路に夢や希望を抱き、高い志を持って、その実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、地域社会に積極的に参画し、貢献できる人材を育成する学校をめざします。

【生徒に育みたい力】

- 1 高校三年間の様々な体験的学習を通して、発見・驚き・感動を自信に繋げ、将来の夢を見定め実現していく力。
- 2 地域社会の発展に寄与するための高い志を持ち、自らを律し、社会人として自立する力。[自立]
- 3 異文化や異なる価値観を理解し、身の周りから世界中までの様々な人々と共生できる力。[共生]
- 4 清掃やボランティア活動を通して、基本的人権を尊重し社会に貢献できる力。[友愛]

2 中期的目標

1. 将来の夢を自ら見定め、自立・実現していく力を育む

(1) わかる授業、進路実現を見据えた授業をめざし、授業改善に取り組む。

ア、習熟度別授業（チャレンジ・スタンダード・ベーシック）と演習科目を充実させ、基礎学力及び受験学力の向上に資する授業を展開するとともに、補習・講習の講座充実を図る。

イ、専門コースあるいはエリアに合わせた体験授業（看護・保育実習）を取り入れるなど、泉佐野市や地元大学等と連携し、出前授業など外部人材の活用を推進する。

ウ、ICTプレゼンテーション・ルームを開設、ICTを活用したプレゼンテーション能力開発授業を研究・推進する。

エ、語学教育、歴史教育や政治的教養、読書活動など多様で総合的な学習機会を通じ、異文化や異なる価値観への理解を深め、幅広く自らの進路選択に繋げる。

オ、学校教育自己診断アンケートや授業アンケートの項目に基づき、学校経営上の数値目標を設定する。

※学校教育自己診断アンケートにおいて、専門コースあるいはエリア・科目選択に関する授業への満足度。(H27:74.2% H28:75% H30:80%)

※授業アンケートにおいて、授業への教材（ICT等）活用を行った教員の授業への満足度。(H27:90.6% H28:92% H30:95%)【学校経営推進費対象事業】

※学校教育自己診断アンケートにおいて、プレゼンテーション能力が十分に身についたとする生徒の肯定的回答率。(H27:59.8% H28:70% H30:90%)【学校経営推進費対象事業】

※国公立大学・難関私立大学（関関同立・近・関外大）進学者数、児童保育系進学者数、看護医療系進学者数。(H27:26名 H28:40名 H30:50名)（児童保育・看護は対前年+10名を継続。H27実績 児童保育系 20名 看護医療系 43名）

国公立大・難関私大進学者をグローバル人材（20%）、児童保育・看護医療・他進学者を地域社会貢献型グローバル人材（80%）と考え、そういった人材を輩出する進学校をめざす。

※進路希望実現満足度。(H27:70.9% H28:80% H30:90%)

(2) 特色ある三つの専門コース(アドバンスト人文社会・子どもみらい・看護メディカル)を持つ普通科専門コース設置校として、新しい公立高校のカタチを探求する。

ア、専門コース演習科目の内容充実を図る等、より生徒のニーズに適合したカリキュラム編成を行うとともに、それを的確にガイダンスしていく。

イ、コース選択時の生徒満足度をあげるとともに、特色ある専門コースを選択する生徒の全生徒比率 40～50%を目途にバランス良くガイダンスしていく。

ウ、もっと入りたい学校へ。入試志願者倍率の向上をめざす。

※ガイダンスに関する満足度。(H27:76.1% 以降、対前年増を継続)

※入試志願者倍率。(H27:1.20倍 H28:1.25倍 H30:1.30倍)

(3) 進路に夢や希望を抱き、社会の一員として自立し、その発展に寄与するという高い志を身につける。

ア、志学・キャリア教育・人権教育・進路指導を系統的に結合した「ひねのプログラム」を活用し、生徒の学習意欲の向上を図る。

イ、分野別進路説明会を開催するとともに、「進路適性検査」などを活用し、選択のミスマッチを回避、自己の進路実現を図る。

ウ、社会保険労務士や司法書士などの外部講師を招聘し、社会人としての心得など、身近な問題に触れ意識付けを図る。

※進路選択やキャリア教育に関する満足度。(H27:75.2% H28:78% H30:80%)

2. 社会道徳教育・人権教育を基盤に、地域社会と連携しまた貢献する志と力を育む

(1) 「いじめ防止基本方針」の実施と道徳教育を推進する。

ア、「いじめ防止基本方針」に従い、「いじめ防止対策委員会」中心に、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に取り組む。

イ、基本的生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る。

※命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった。(H27:63.1% H28:65% H30:70%)

※生徒一人当たり平均遅刻回数。(H27:5.9回 H28:5回以下 H30:3回以下)

(2) 急速に普及するスマートホンに係るネットと人権侵害理解についての取組みを推進する。

ア、スマホの急激な普及によって起こっているインターネット上の諸問題に対し、情報と社会授業や各学年のHR等で学習し対応に取り組む。

イ、保護者への啓蒙活動も文書等により引き続き行うとともに、保護者と教職員とがさらに連携を深め、生徒一人ひとりを大切にしたい人権教育の充実を図る。

※保護者向け教育相談に関する満足度。(H27:82.8% H28:85% H30:90%)

(3) 各種の地域ボランティア活動への参加を通じ、生徒の社会的貢献を図るとともに、活動の成果を対外的にアピールする。

ア、保健部や保健委員会を中心とした地域での清掃活動等の取組みを推進する。

イ、生徒会を中心としたボランティア活動の取組みを推進する。

ウ、学校周辺の商業施設や学校と連携し、部活動の発信・発表の場を多く設けることで、生徒が社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解する。

※地域清掃等ボランティア活動参加者数。(H27:26名 H28:30名 H30:35名)

※部活動加入率。(H27:59.7% H28:63% H30:65%)

(4) 学校協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取り入れるとともに、HP等で学校の特色ある取組みを紹介する。

ア、保護者向け学校教育自己診断における「教育活動」に対する満足度について、さらなる向上をめざす。

※教育活動に関する満足度。(H27:81.6% H28:85% H30:90%)

※教育情報についての提供努力満足度。(H27:80.9% H28:85% H30:90%)

3. 生徒理解を促進し相談体制を充実させる

(1) 障がいのある生徒への理解を深めつつ自立を支援する合理的配慮を行い、生徒支援委員等を通じスクールカウンセラーとの効果的な連携を図る。

ア、「生徒支援カード」をもとに、支援を要する生徒について支援計画を作成し、情報収集と個別の支援内容の検討を行う。

(2) 生徒がより相談しやすくするため、生徒の相談窓口の複数化と充実を行う。

ア、体罰やハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談についても相談体制を構築し周知徹底する。

※生徒向け教育相談に関する満足度。(H27:57.8% H28:65% H30:70%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 エリア科目選択に関する授業満足度(81.1%/目標 75%)・・・対前年 6.1%^{アップ} 家庭学習時間 (66 分/目標 2 時間)・・・対前年微増 体験的学習時間 (延べ 83 時間/目標 60 時間)・・・対前年 56%^{アップ} ICTを活用した授業満足度(94.8%/目標 92%)・・・対前年 2.8%^{アップ} プレゼンテーション能力向上満足度(66.2%/目標 70%)・・・対前年 6.4%^{アップ} 国公立・難関私大進学者数(26 名/目標 40 名)・・・対前年同数 児童保育系(29 名/目標 30 名)・・・対前年 9 名^{アップ} 看護系進学者数 (67 名/目標 53 名)・・・対前年 24 名^{アップ} 進路希望実現満足度(70.4%/目標 80%)・・・対前年横ばい ガイダンスに関する満足度(86.3%/目標 76%)・・・対前年 10.2%^{アップ} 入試志願者倍率(1.07 倍/目標 1.25 倍)・・・対前年 0.13%^{ダウン} 進路選択やキャリア教育に関する満足度(85.2%/目標 78%)・・・対前年 10%^{アップ} キャリアガイダンスセンター入室者数 (11 名/稼働日 目標 12 名)・・・対前年横ばい</p> <p>【生徒指導等】 命の大切さや社会のルールを学ぶ機会に関する満足度(76.9%/目標 65%)・対前年 13.8%^{アップ} 平均遅刻回数(4.7 回/目標 5 回以下)・・・対前年 20%減。 教育相談に関する満足度/保護者(84.5%/目標 85%)・・・対前年 1.7%^{アップ} 教育活動に関する満足度/保護者(84.6%/目標 85%)・・・対前年 3%^{アップ} 教育情報の提供についての満足度/保護者(83.9%/目標 85%)・・・対前年 3%^{アップ} 教育相談に関する満足度/生徒(62.4%/目標 65%)・・・対前年 4.6%^{アップ}</p> <p>【学校運営】 地域清掃参加者数(33 名/目標 30 名)・・・その他、支援ボランティア 23 名、保育ボランティア 10 名 部活動加入率(68%/目標 63%)・・・1 年生を中心に目標達成。 学校行事に関する満足度(77.3%)・・・対前年 19.6%^{アップ}</p>	<p>【第 1 回 6/5(金)】 ・政治的教養を身に着けるため「選挙制度の説明」にとどまらず、生徒自らが政治に興味を持つための工夫をしてほしい。また不在者投票制度についても啓発活動をしてほしい。 ・国際交流について、オーストラリア語学研修のみでなく、関西国際センターなどの地元の国際交流機関を利用して異文化に触れる更なる場の設定を考えるべきだと考える。また、留学生・研修生の受け入れにももっと積極的になっていいのではないかと。 ・専門コースを選択する生徒たちにプロとしての意識づけをする機会、現場での実務体験をする機会を更に増やしつつ進路実現につなげてほしい。 ・社会人講師による講演をもっと拡充することを検討してはどうか。</p> <p>【第 2 回 10/28(金)】 ・TPP など社会問題に関心を向けさせるような具体的施策を考えてほしい。 ・マイナンバー制についての啓発活動を検討してほしい。 ・文化祭、体育祭への取組みに集団活動としての意識の芽生えがあり評価できる。 ・食堂運営については生徒の意見をもっと取り入れ、もっと生徒参加型の運営をしてはどうか。 ・語学研修先の都合とはいえ、参加者の減少は良くない。新しい語学研修先としてフィリピンを検討してはどうか。 ・関西国際センターとの連携を評価する。持続的継続的に計画してはほしい。</p> <p>【第 3 回 1/27(金)】 ・目に見えない様々なマイノリティに対し、今後、学校でどう対応していくかが重要である。 ・ダイバシティは尊重されるべきであるが、そのすべてに対応するとなると教職員へ負荷がかかる。教職員の体調やストレス管理をしっかりやってもらって、十分に生徒対応できるようにしてほしい。 ・生徒や保護者へのアンケート内容が量的に多すぎる。重要で必要なものだけに絞るべきである。 ・センター入試を活用する生徒をもっと増やすべきである。 ・学業成績だけでなく(学校行事・部活動・ボランティア活動等)もっと生徒の人間像が分かるような評価表を独自に作ってみてはどうか。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
-------	----------	-------------	------	------

大阪府立日根野高等学校

<p>1 将来の夢を自ら見定め、自立・実現していく力を育む</p>	<p>(1) わかる授業、進路実現を見据えた授業をめざし、授業改善に取り組む。</p> <p>(2) 特色ある三つの専門コースを持つ普通科高校として、新しい公立高校のカタチを探求する。</p> <p>(3) 進路に夢や希望を抱き、社会の一員として自立し、その発展に寄与するという高い志を身につける。</p>	<p>(1) ア、英・数・国の教科において、チャレンジ・スタンダード・ベーシック 3 段階の習熟度別授業を設定し、また補習・講習講座を充実させていくことで、苦手科目の克服、得意科目の伸展を図る。 自習・講習・考査の「場」を提供し、家庭学習時間の現状確認を継続する。 イ、実践的な専門演習科目を確立し、地域連携強化のもと、外部人材のプロ精神と技術を体験する。 ウ、専用の ICT 教室を活用し、プレゼンテーション能力開発の授業を研究・推進する。 反転学習やペアワーク等の導入を推進し、生徒の発話機会を拡大させ、コミュニケーション能力の向上に繋ぐ。 エ、語学、歴史教育や政治的教養、読書活動など多様で総合的な学習機会を通じ異文化や異なる価値観への理解を深め、幅広く自らの進路選択に繋げる。 オ、学校教育自己診断アンケートや授業アンケートの項目に基づき、学校経営上の数値目標を設定する。</p> <p>(2) ア、専門コース演習科目の内容充実を図る等、生徒のニーズに適合したカリキュラム編成を行うとともに、それを的確にガイダンスし運用する管理者を設ける。 イ、コース選択時の生徒満足度を上げるとともに、特色ある専門コース選択をする生徒へのガイダンスをバランス良く行う。 ウ、もっと入りたい学校への魅力づくり。</p> <p>(3) ア、「ひねのプログラム」を活用し、生徒の学習意欲の向上を図る。 イ+ウ、分野別進路説明会、社会保険労務士講座、司法書士講座等、外部人材を活用し、進路実現に繋げる。</p>	<p>(1) ア、「エリア科目選択に関する授業への満足度」75%。(H27 74.2%) 「家庭学習時間」2時間(H27 63分) イ、体験的学習延べ60時間/全校(H27 53時間) ウ、「ICT活用授業を行った教員への満足度」92%(H27 90.6%)。生徒の「プレゼンテーション能力向上満足度」70%。(H27 59.8%) エ、CAN-DO リストの作成および効果的運用。 オ、国立大学・難関私立大学(関関同立+近+関西外)の進学者数+10名。児童保育系進学者数+10名。看護医療系進学者数+10名。進路希望実現満足度80%(H27 70.9%)</p> <p>(2) ア、「ガイダンスに関する満足度」77%(H27 76.1%) イ、専門コース選択比率目標 アドバンスト人文社会15%(H27 8%) 子どもみらい20%(H27 11%) 看護医療20%(H27 10%) ウ、入試志願倍率1.25倍(H27 1.20)</p> <p>(3) 「進路選択やキャリア教育に関する満足度」78%(H27 75.2%) 「キャリアガイダンスセンター来室者数の拡大」12名/稼働日。(H27 11名)</p>	<p>(1) ア、「家庭学習時間」66分。対前年5%増であるが目標未達。引き続きひねのプログラム運用により進路意識を改善するとともに、学校として自習・講習環境を充実させる。(△) イ、83時間。泉佐野市との教育連携の結果、持続的な学習体験を重ねることができている。(◎) ウ、満足度が上がっているとともに、大阪府高校生ビブリオバトル大会で本校生徒が優勝。学校全体のコミュニケーション能力向上への意欲が一気に上昇してきている。特に1年生の満足度は80%(◎) エ、オーストラリア語学研修に加え、今年度より地元「関西国際センター」との共同事業を開始。 タイからの語学研修生を受入れ異文化交流への手札を増やした。(○) オ、国立難関私大26名(△) 児童保育系29名(○) 看護医療系67名(◎)</p> <p>(2) ア、86.3%。ひねのプログラム稼働で急上昇。(◎) イ、専門コース選択比率は計画に対し、アドバンスト16%、子どもみらい10%、看護14%。全体としてのバランスが取れてきている。(○) ウ、1.07倍。1クラス募集増による。志願者実数は対前年11名増加。(○)</p> <p>(3) アイウ、ひねのプログラムが稼働し始めており、外部から様々な講師(看護師、保育士、社労士、司法書士、税理士、民間経営者等)を受入れ、生徒たちのキャリア形成へと繋いだ。(○) 来室者数は横ばい。教員の常駐化を更に進める。(○)</p>
<p>2 社会道徳教育・人権教育を基盤に、地域社会と連携しまた貢献する志と力を育む</p>	<p>(1) 「いじめ防止基本方針」の実施と道徳教育を推進する。</p> <p>(2) 急速に普及するスマートホンに係るネットと人権侵害理解についての取組みを推進する。</p> <p>(3) 各種の地域ボランティア活動への参加を通じ、生徒の社会的貢献を図るとともに、活動の成果を対外的にアピールする。</p> <p>(4) 学校協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取り入れ、HP等で学校の特色ある取組みを紹介する。</p>	<p>(1) ア、「いじめ防止基本方針」に従い「いじめ防止対策委員会」を立ち上げ、年間計画に沿って実施する。 イ、基本的生活習慣の確立、挨拶励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成。</p> <p>(2) ア、インターネット上の諸問題(SNS等)の事例を多く取り上げ、現実性をもたせながら指導する。情報と社会授業や各学年HR等で、その問題に対する取組みを継続する。 イ、保護者への啓蒙活動も含め、家庭・学校間の連携を深めた人権教育を展開する。</p> <p>(3) ア、保健部・保健委員会を中心とした地域での清掃活動等の取組みを推進する。 イ、生徒会を中心としたボランティア活動の取組みを推進する。 ウ、学校周辺の商業施設や学校と連携し、部活動の発信発表の場を多く設けることで、社会貢献の意義や尊さを理解する。 ・吹奏学部(小中大での訪問演奏・合同演奏、商業施設でのタイアップ演奏等) ・美術部(商業施設や文化施設での展示発表) ・茶道部(商業施設での国際交流連携) ・女子バレー部(地域33中学校を対象とする日根野杯開催によるバレー・体育振興)</p> <p>(4) ア、保護者向け学校教育自己診断において、教育活動に対する満足度を更に向上させる。</p>	<p>(1) ア、生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があったに関する満足度」65%。(H27 63.1%) イ、平均遅刻回数5回以下(H27 5.9)</p> <p>(2) イ、保護者向け「教育相談に関する満足度」85%(H27 82.8%) ・保護者向け人権学習会の開催1回。(H27 1回)</p> <p>(3) ア・イ、地域清掃活動参加者数の増加。30名(H27 26名) ウ、部活動加入率63%(H27 59.7%)</p> <p>(4) ア、保護者向け学校教育自己診断における「教育活動に関する満足度」85%(H27 81.6%) 「教育情報についての提供努力満足度」85%(H27 80.9%) 学校情報の一斉メール配信システムの有効利用。 学校自己診断・授業アンケートの分析方法の再検討。</p>	<p>ア、イ) 対前年13.8%改善。ひねのプログラム稼働で急上昇(○) 遅刻については前年から現在で20%減(○)</p> <p>ア) 引続き、スマホの使い方講座を主体に展開し、生徒・保護者の満足度は着実に改善中(○) イ) 特に保護者向け人権学習では、参加した保護者から高い評価を得た。(◎)</p> <p>ア、イ) 年数回の支援・保育ボランティア活動を通じ、地元へ大きく貢献している。引続き参加者の輪を拡大する働きかけをする(○) ウ) 部活加入率68%、目標を達成した。1年生の加入実績が80%を超えており、今後同じような声かけを継続していけば、中期目標数値達成が実現できる。また、体育祭・文化祭への生徒の積極的な取組みを促し、生徒満足度を57%から77%へ大きく改善させた(◎)</p> <p>ア) 引続き、メールやHPを通じ、学校行事・クラブ活動などの情報発信機会を拡大するとともに、地元中学や学習塾、泉佐野市との連携を強化し、地元から評価される学校づくりをめざす。(○)</p>

大阪府立日根野高等学校

<p>3 生徒理解の促進と相談体制の充実</p>	<p>(1)障がいのある生徒への理解を深めつつ、自立を支援する合理的配慮を行い、生徒支援委員等を通じ、スクールカウンセラーとの効果的な連携を図る。</p> <p>(2)生徒がより相談しやすくするため、生徒の相談窓口の複数化と充実を行う。</p>	<p>(1)ア、生徒支援カードをもとに、支援を要する生徒について支援計画を作成し、情報収集と個別の支援内容を検討する。</p> <p>(2)ア、体罰・ハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談体制を構築し周知徹底する。</p>	<p>(1)(2)生徒向け学校教育自己診断における「教育相談に関する満足度」65%(H27 57.8%)</p>	<p>・主担教員に限らず全校で教育相談機能を充実させた。具体的には校内研修を積極的に開き、教育相談委員会と支援コーディネーター組織を統合した。</p> <p>(○)</p> <p>・体罰やハラスメントをはじめ、綱紀全般に関わる校内研修を積極的に開き、生徒たちの相談窓口としてふさわしい教職員集団づくりを実践していく。</p> <p>(○)</p>
------------------------------	--	--	--	---